

令和4年度 第2学期始業式 校長講話（概要）

皆さん、おはようございます。6週間にわたる夏休みも終了し、本日より2学期が始まりました。新型コロナウイルスの感染者数は、相変わらず高止まりの状況ですので、引き続き感染症対策を怠らないようにして欲しいと思います。

今年の夏は、たいへん暑く40℃近い日もありましたから、皆さんも体調管理が大変だったと思います。一方で、8月上旬は、北陸や東北地方で大雨による大きな災害が発生しました。今日は「防災の日」です。台風シーズンはまだ続きますので、暮らしている地域の避難所や、災害時に無料で使える公衆電話の設置場所等を確認するなど、皆さんも十分に防災を意識してください。深谷市のハザードマップは、今年4月に改訂されました。市役所のホームページに掲載されていますので、一度見ておいてください。

また、長い夏休みの後の2学期は、リズムを作りやすく、精神的に重くなりがちです。今、そんな思いで、座っている人もいるかと思います。身体の傷は見えるからわかりますが、心の傷は話してくれないとわかりません。身体の傷も・心の傷も、手当てをすれば良くなります。必ず今よりも良くなります。苦しいことがあったら、小さなことでも相談してください。弱音を吐くことは、ダメなことではありません。学校に相談するのが難しいようであれば、24時間の電話相談やメールで相談できるところも沢山あります。インターネットで検索すればすぐ出てきます。一人で抱え込まないで、相談して欲しいと思います。

さて、話を変えます。先日、熊谷市の妻沼の公民館に行く機会がありました。その近くには、グライダーの滑空場があり、ちょうど大学生の競技会が開催されていたようで、グライダーが空を飛んでいる様子を見ることができました。その時に思い出したのが、外山滋比古氏の「思考の整理学」という本の中に書かれている、人間にはグライダー能力と飛行機能力があるという話です。グライダーと飛行機は、遠くから見てみると似ています。空を飛ぶのも同じです。グライダーが音もなく優雅に滑走している様子は、飛行機よりも美しいくらいです。ただ、悲しいことに、自力で飛ぶことができません。グライダー能力も飛行機能力も、両方とも大切な能力だと思います。しかし、先生と教科書に引っ張ってもらってグライダー型ではなく、エンジンを積んで自分の頭で考え、自力で飛びまわられる飛行機型の人間が、これからの時代に求められているのではないかと感じています。外山氏は、何年か前の雑誌のインタビューで、こんな話をしています。「僕が本に書いたのは、“墜落してもいいから飛行機になれ”ということです。グライダー型人間は、モノマネが得意だけれど、新しい事態や時代の変化に対応できません。人工知能やITなどが発達した今こそ、他人に引っ張ってもらって飛ぶグライダー型人間ではなく、自力で自分のめざす場所まで飛べる飛行機型人間が求められています。

「自力で飛ぶ」とは、「自分の頭で考える」ということです。ぜひ、皆さんには、与えられた知識を基に、自分で思考し、判断して、表現もしくは行動できる飛行機能力を身に付けて欲しいと思います。

次に、学年ごとにメッセージを送ります。3年生の皆さん。希望する進路の実現に向けて、この2学期は本気で勝負する時期です。努力しても、すぐに結果や成果が出ないことがあるかもしれません。それでも、自分の進路実現に向けて、「強い志」を持ち続け、高校生活の集大成として、できる限りの努力をして欲しいと思います。

2年生は、部活動、生徒会・委員会活動など、様々な分野で、3年生からバトンを受け取る時期です。これからの1年間は、2年生が「深商の中心」です。その自覚をもって、様々な分野で、主体性を発揮して欲しいと思います。

1年生は、「高校生としての自分」を確立する時期です。よく「自分探し」という言葉を聞きますが、私は、高校時代は「探す」のではなく、「創る」のが本当なのではないかと考えています。「自分探し」ではなく、「自分創り」です。自分の適性をただ探すのではなく、自分の適性を「自らが創りながら、気づいていく」その時期が、高校1年生だと思います。

最後の話です。2学期は、勉強や部活動はもちろんのことながら、文化祭や体育祭、修学旅行など大きな行事も予定されており、皆さんの活躍の場が沢山あります。その様々な教育活動が当たり前に行えるためには、今一度、日頃の手指消毒や換気、黙食など、できる対策はみんな意識して取り組み、落ち着いた教育活動が展開できるよう、各自が、それぞれのできることを確実に実行する行動こそが求められています。責任ある行動をお願いします。

この2学期が、生徒の皆さん一人一人にとって、「実り多い2学期」、「飛躍の2学期」になることを期待し、令和4年度第2学期始業式の校長講話を終わります。